



# 甲府市 薬剤師会 だより

## 2023年12月

公益社団法人 甲府市薬剤師会  
〒400-0857 甲府市幸町14-6  
電話番号055-236-5200  
FAX番号055-236-5201

皆様の健やかな暮らしを願って

第16号

## 「市民くすりと健康の講演会」開催報告 (公杜) 甲府市薬剤師会 生涯学習委員会 委員長 小沢 慎一郎

令和5年11月11日(日)、山梨県立図書館 多目的ホールにおいて「市民くすりと健康の講演会」を開催いたしました。甲府市薬剤師会ではこれまでも、市民の皆様に関心が高いテーマに沿っての講演会を企画しており、過去には認知症治療、緑内障治療、リウマチ治療、骨粗しょう症治療など、市民の皆様の関心の高いテーマに対して専門家の先生をお招きし開催してきました。ここ数年は新型コロナウイルス感染症対策のため、参加人数を制限しての開催が続いていましたが、今年の講演会からは参加人数を増やして、通常規模で開催することが出来ました。

当日は幅広い年代の方々に参加していただき、計40名での開催となりました。今回は「～いつまでも健康でいるために～ 糖尿病攻略法」と題して、山梨大学医学

部附属病院 糖尿病・内分泌内科 助教の原井 望先生をお招きし、ご講演いただきました。



山梨大学医学部附属病院 糖尿病・内分泌内科 助教 原井 望 先生

当日参加された皆様は、現時点で糖尿病治療を実施している方だけでなく、健康診断等で糖尿病予備軍との指摘を受けて、今後の対策として本講演を聞きに来られた方もいらっしゃいました。糖尿病

患者は、近年の生活習慣の変化、高齢化などに伴い予備軍も含めると我が国には約2,000万人いると推定されています。

原井先生は糖尿病専門医、総合内科専門医、内分泌代謝科専門医・指導医の資格をお持ちの専門医です。専門医としての観点から、糖尿病とはどのようなものか、治療はどのように進めていくのか、普段の生活でどのようなことに注意していけば良いのか、具体例をあげながらの講演となりました。ただ単に薬の服用を続けていけば良いのではなく、どのような意識をもって糖尿病と向き合えばよいのか、合併症を防ぐための血糖コントロールの重要性について、参加者の皆様はよりご理解いただけたのではないのでしょうか。



講演会の様子

また、今回の講演会ではアンサーパッドを用いた原井先生と参加者のクイズ形式での双方向のやり取りもあり、新しい試みとして大変好評でした。講演終了後のアンケートでも「大変参考になった」「説明、内容がわかりやすく良かった」等の意見が大半で、原井先生のご講演が市民の皆様にとって貴重な内容だと感じました。

本年度の「市民くすりと健康の講演会」は会員の先生方、そして事務局の皆様方のご協力のおかげで大変意義深いものとする事が出来ました。アンケートでは講演会の感想だけでなく、今後取り上げて欲しいテーマについてもたくさんのご意見を頂いております。生涯学習委員会ではアンケート結果を参考に次回以降のテーマを検討しております。次回もより良い「市民くすりと健康の講演会」を開催したいと思いますので、市民の皆様のご参加をお待ちしております。

## 第6回薬物乱用防止 キャンペーン 「薬物乱用防止教室」 を開催して

(公社)甲府市薬剤師会  
医薬・環境情報委員会  
委員長 大嶋 了

毎年、甲府市薬剤師会医薬・環境情報委員会では薬物乱用防止キャンペーンを企画しています。最近のニュースでも大麻所持や違法薬物の使用、オーバードーズなどが報道されているように、薬物乱用の広がりには深刻な問題になっています。そこで、今年は薬物乱用防止キャンペーンでの「薬物乱用防止教室」の開催を初めて試みました。



第6回薬物乱用防止キャンペーン  
「薬物乱用防止教室」

薬物乱用防止に関する正しい知識を知ってもらうため、薬物乱用防止指導員の柳本先生を講師にお招きし小学生の部・中学生の部に分けて約1時間ずつ行いました。当日は小学生や中学生以外にも養護教諭や学校薬剤師にも参加していただきました。教室では、学年ごとの特性に合わせた指導内容で私自身も参加して薬物乱用防止に関する正しい知識を再認識したと同時に、これから薬剤師として薬物乱用防止の啓発にどのように向

き合っていくかを考えさせられました。そして、薬物乱用防止に関する正しい知識を知るうえで、児童・生徒だけでなく、多くの教員・薬剤師にも「薬物乱用防止教室」へ是非参加していただきたいと思いました。



「薬物乱用防止教室」の様子

### ～薬物乱用防止教室における 国の取り組みについて～

文部科学省では学校における薬物乱用防止教育の充実として「薬物乱用防止教室は学校保健計画において位置づけすべての中学校及び高等学校において年1回開催するとともに地域の実情に応じて小学校においても開催に努める。」としています。

薬物乱用防止教育に関する文部科学省の取組は下記のようになっています。

1. 学校における児童生徒への薬物乱用防止教育の充実強化
2. 薬物乱用防止教室の充実強化

すべての中学校及び高等学校において年に1回は薬物乱用防止教室を開催するとともに小学校においても積極的に薬物乱用防止教室の開催に努め警察職員、麻薬取締官OB、学校薬剤師、税関職員等の協力も得つつその指導の一層の充実を図るよう周知に努める。



3. 小学校、中学校及び高等学校においては児童生徒への薬物乱用防止教育の充実のため、「保健体育」「道徳」「特別活動」における指導に加え「総合的な学習の時間」の事例としてしめされている「健康」に関する横断的・総合的な課題についての学習活動等も活用しながら学校教育」全体をつうじて指導すること

4. 教員や薬物乱用防止教室の指導者に対する研修機会の充実

5. 学校警察連絡会議棟の活用促進など学校と警察との連携強化

6. 大学生等の学生に対する薬物乱用防止のための啓発強化

そして、これらの取組に協力することが薬剤師の薬物乱用防止啓発活動になります。令和4年度薬物乱用防止教室開催状況の調査では学校等が依頼した薬物乱用防止指導依頼講師の職種は警察職員(全体の34.6%)・学校薬剤師等薬剤師(全体の32.7%)で、全国的に薬剤師は薬物乱用防止教室等で薬物乱用防止教育に積極的に参加している職種になっています。しかし、現状山梨県の「薬物乱用防止教室」都道府県別開催率は40.5%で全国最下位です。教室開催率が低い理由は多々あると思います。今回行ったキャンペーンのような児童・生徒への薬物乱用防止の教育や、学校での薬物乱用防止教室の講師として積極的に関与していくことが、私たち薬剤師としての

責務ではないかと思えます。

## 漢方について⑥

～甲斐の医聖～

アトム薬局 大里店  
杉野 二三

漢方は、もともと中国生まれですが、西暦600年頃から遣隋使・遣唐使により日本に渡ってきてから、日本の気候風土や日本人の体質に合うよう改良された日本の伝



図は、小松帯刀『医聖永田徳本伝・伝記篇』(国立国会図書館デジタルコレクションより)

統医学のことです。

この1400年にも渡る長い歴史の中で、山梨県の方には是非知って頂きたい漢方医がいます。それは、甲斐の医者、永田徳本(ながたとくほん)【1513?～1640】です。室町時代後期から江戸時代初期にかけて、118歳の生涯を全うし、「甲斐の徳本」、「十六文先生」や「医聖」とまで称されました。現代でも消炎鎮痛貼付薬として知られる『トクホン』ですが、その名前の由来にもなっているそうです。ちなみに…余談で恐縮ですが、私の父親はシップなど

の貼り薬のことを総称して「トク



1950年ごろ発売されたトクホン(大日本衛星資料室HPより)



現在発売されているトクホン(大正製薬商品情報サイトより)

ホン」と言っておりました。

江戸時代に甲斐の国で活躍した永田徳本の歴史は、甲斐の国主であった戦国大名武田信虎・信玄父子二代の侍医であったところから始まります。武田信玄が信虎を領国から追放した後は信濃国諏訪に移り住んでいたようです。伝承によりますと武田家滅亡後は、首から「十六文」と書かれた薬袋を提げ牛の背に乗って諸国をめぐり、

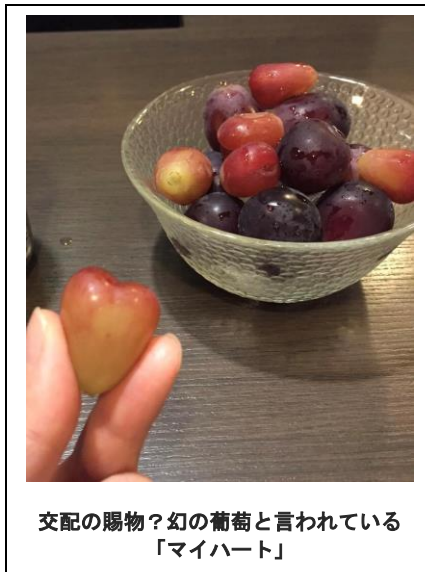


どんな治療を施しても報酬は十六文として、それ以上の金額を受け取らなかったと伝わっており、「十六文先生」と称されていたようです（十六文は江戸時代ではかけそば一杯と同じくらいです）。江戸時代に入った後は、徳川二代将軍・秀忠の病を治癒し、米や金品、土地を報酬として録されてもそれを受け取らずに立ち去ったと言われています。

他にも永田徳本の面白い逸話はたくさんあり、山梨の名産、甲州葡萄にも関わっていたと言われています。江戸時代には甲州の葡萄栽培が盛んになりましたが、それは永田徳本が棚かけ法を考案してからとされています。徳本は山野をめぐり薬草を採取しながら研究したため、本草学（ほんぞうがく：漢方で使われる生薬の解説書、現代の博物学にも通じる学問）にも通じており、地域の人々にブドウ棚を用いて作る方法や、つぎ木挿し木、ブドウ種の交配の方法を授け、甲州葡萄の名が高まっていったと言われています。

その他、漢方の書籍としては最も重要な医学書、『傷寒論（しょうかんろん）』にいち早く着目した医者としても知られており、永田徳本の医学は「徳本流」とも言われ、江戸時代の幕末期まで徳本流を用いる医家があったことが分かっています。著書としては『梅花無尽蔵（ばいかむじんぞう）』『徳本翁十九方（とくほんおうじゅうくほう）』等があり、甲州文庫にも残っています。

生没年によると享年118歳と謎や伝説の多い人物ですが、まさに『医聖』と呼ぶに相応しい医者あり仁者であったことが伺えます。私も同じ甲斐の生まれ、医療従事者の一員である薬剤師として、地域医療に貢献し、皆様にとって身



近で頼れる存在に成れるよう、日々研鑽を続けたいと思います。

## いきいきサロン

甲府市薬剤師会では、甲府市内の高齢者学級やいきいきサロンが行っている学習会へ薬剤師講師を派遣します。

質疑応答含めまして1時間程度「くすりとの上手なつきあい方」についてお話させていただき、医薬品の適正使用に関する普及啓発活動を行っています。

## 令和5年度実績

千塚なかまちいきいきサロン  
2023年5月9日（火）  
場 所：千塚市民会館  
講 師：米倉 詩織 先生

湯本いきいきサロン  
2023年7月12日（水）  
場 所：湯本いきいきサロン  
講 師：宮田 尚子 先生

いきいきサロン中条南  
2023年8月8日（火）  
場 所：中条南公民館  
講 師：安永 清徳 先生

いきいきサロン飯田西部  
2023年10月2日（金）  
場 所：八幡神社公民館  
講 師：数野 庸 先生

## お申し込み方法

令和5年度（令和5年4月～令和6年3月）の薬剤師講師派遣をご希望の高齢者学級・いきいきサロンのご担当者様は、甲府市薬剤師会事務局までお電話ください。その後お申込み用紙をご送付いたします。

甲府市薬剤師会 事務局  
TEL：055-236-5200  
平日9時～17時



いきいきサロン飯田西部の様子

## 介護施設等への講師派遣事業

甲府市薬剤師会では、地域の介護施設などに薬剤師を講師として派遣し、在宅医療に関する講演・相談及び助言等を行っています。

## 令和5年度実施施設

あおぞらの里  
甲府デイサービスセンター  
2023年7月7日（金）  
講師：鶴田 洋平 先生  
参加人数：55名

第16号 2023年12月26日  
発行/(公社)甲府市薬剤師会  
編集担当/会報編集委員会